



茶

一番茶対策は
万全に!!



農業経営支援課
山本 尚充

《晩霜対策》

4月は、移動性高気圧が日本の上空を最も多く通過する時期です。この時期に、晴れて風が弱くなると、霜が降りる可能性が最も高くなります。また、夕方まで小雨が降り、宵から夜半にかけて急速に晴れ上がると凍霜害が発生することもあります。防霜施設や資材の点検をしましょう。

《芽出し肥の施用》

芽出し肥は、昨年秋季以降に充実してきた一番茶芽を摘採まで肥切れさせないように施すものです。雨の有無や肥料の種類によって分解速度に差があるので、施肥時期が遅れないように気をつけましょう。昨年末から降雨は充分といえる状況ではありません。肥料効果を上げるため、かん水を行い、施肥後の中耕を行います。

《病害虫防除》

4月は、カンザワハダニ、コミカンアブラムシなどを主に防除しましょう。**越冬タニの密度は前年に比べ多発傾向にあります。**特にカンザワハダニは、晩霜の被害を受けると多発することがあるので注意してください。また、各地域で春の病害虫調査をしています。これらの情報をチェックしてください。

《一番茶の摘採》

摘採期が1日遅れると、収量が8〜12%増加、全ちつ素含有率は0.1%減少します。また、摘採位置を1cm上げると、全ちつ素含有率は0.1%増加します。摘採期の判定は、出開き度50〜80%に達する日と新芽の平均開葉数4.5枚に達する日（約5日で1枚開葉）から推定できます。

各地域では、一番茶前に生育調査をしてい

ます。これらの情報と自身の茶園の生育状況等を把握し、早めの摘採を心掛けましょう。

《製茶機械の点検清掃》

茶工場内の清掃、摘採機や製茶機の点検・清掃は早めに行い、余裕を持って一番茶に望んでください。近年、茶工場内や乗用型摘採機の使用中の労災事故が多発しています。工場内では、一緒に働く仲間の仕事内容を把握し、声掛けを行いましょう。乗用型摘採機での作業は、時間・気持ちに余裕を持ち、無理な行動は避けましょう。

《最後に》

最近の荒茶販売は、一茶期を通して必要量以上に仕入れず、高品質は当たり前。ほんの少し気に入らない部分があれば販売にならないととても厳しい状況です。取引茶商が求める茶の品質を把握し、繋がりを強化しましょう。